

四国大学生の観光意識アンケート調査にみる観光意識

牧田修治・西口真也・住友琢磨・玉置冬馬
新居樹希也・宮本英司・山田晃輔・和氣坂昂

The Findings from The Survey of Shikoku University Students' Attitude toward Tourism

Shuji MAKITA, Shinya NISHIGUCHI, Takuma SUMITOMO, Touma TAMAKI,
Jukiya NIH, Eiji MIYAMOTO, Kousuke YAMADA and Kou WAKISAKA

1. はじめに

「宿泊旅行統計調査」(観光庁)の都道府県別延泊者数(確定値)をみると、徳島県は2010年から3年連続で47都道府県中47位と最下位、最新の2013年10月～12月期の統計でも依然として最下位という状態である。観光立県を掲げる徳島県としては厳しい状況が続いていることから、2013年9月の定例議会で、飯泉知事は一般質問に対する答弁で「3年以内の最下位脱却を目指し、平成27年までに昨年の約180万人から50万人増加となる230万人を目標として掲げ、本県の観光誘客促進と宿泊者数の増加にさらなる知恵と工夫を凝らし、本県の地域経済活性化にしっかりとつなげてまいりたいと考えております。」(平成25年9月徳島県議会定例会会議録10月03日-04号)と答えた。

観光振興に関心を持っているのは県議会でも同様である。徳島県議会では、議会活動を充実させるために、必要に応じて超党派で議員連盟を組織し、勉強会など各種の活動を行っている。本学では、平成24年7月に徳島県議会と包括連携協定を締結し、この協定の下で、観光振興議員連盟(会長:川端正義県会議員)の議員の方々と、経営情報学部経営情報学科の牧田ゼミ及び西口ゼミのゼミ生とで観光をテーマに共同調査を行うことになった。そして、2度の意見交換会を経て、今般、本学学生を対象として観光に関する意識調査を行った。本稿では、このアンケート調査の結果の概要を報告する。

本稿の構成は以下の通り。まず、2で調査対象や調査方法について簡単に説明するとともに、回答者

の構成などを明らかにする。次いで、3で質問項目に対する回答を紹介する。ここでは、学生の旅行回数や宿泊施設決定に係る要因、旅行に際しての情報収集手段等についての回答結果を男女別に紹介する。最後に、4で本調査で得られた知見を整理し、今後の予定についても簡単に触れる。

2. 調査対象と調査方法

1) 調査対象と調査方法

アンケート調査の対象は四国大学看護学部、生活科学部、文学部、経営情報学部、短期大学の1年生から4年生とした。調査方法は、各学部の講義開始時あるいは終了時にアンケート用紙を配布し、直ちに記入してもらい回収するという方法、あるいは、各学部学科の主任教員に依頼してアンケートを実施し回収するという方法を使った。アンケート実施期間は2013年12月から2014年1月の間である。

2) 調査対象の属性

アンケート回答者数は、属性に関する質問項目の無記入者を除いた合計1,006人であった。本学の昨年度の在学学生は、本学のホームページによると2,384名であるので、約半数の学生が回答したことになる。回答者の構成を学年別にみると、1年生は247人(構成比24.6%、以下括弧内同様)、2年生は292人(29.0%)、3年生は242人(24.1%)、4年生は225人(22.4%)と、2年生の構成比がやや高いが概ね均等な構成となっている。

次に女子学生と男子学生の構成をみると、女子学

図表1 回答者の学年別・男女別構成

(単位：人，%)

		合計				
		1年生	2年生	3年生	4年生	
合計		1,006 100.0	247 24.6	292 29.0	242 24.1	225 22.4
	女子	724 72.0	163 66.0	224 76.7	170 70.2	167 74.2
	男子	282 28.0	84 34.0	68 23.3	72 29.8	58 25.8

(注) 1. 表中上段は実数(人)，下段は構成比(%)を示す。

2. なお，合計欄の構成比は学年別構成比，女子学生及び男子学生の構成比は各学年の男女別構成比を示している。

生は724人(72.0%)，男子学生は282人(28.0%)と，女子学生が回答者全体の7割程度を占めている。各学年の女子学生と男子学生の構成比も概ね7対3である(図表1)。

3) 調査内容

第1回意見交換会(2013年6月25日)及び第2回意見交換会(同年10月21日)で，議員の方々から「若者がどの程度旅行しているのか」「旅行の行き先の決め手は何か」「情報収集の手段として何を使っているのか」といった質問が出された。意見交換会で議員の方々から出された質問を中心に，西口ゼミ(1年生)で質問項目を作成し，牧田ゼミ，西口ゼミの他，短期大学の加渡ゼミの皆さんにも協力して頂いて予備調査を行い，最終的な質問項目を作成した。この結果，属性項目を5項目，観光に関する質問項目を9項目とした。なお，調査票を別添したので参照されたい。

3. 回答結果の概要

1) 旅行回数

家族旅行を除いて，学生がこれまで(アンケート調査時点以前)に日帰り旅行も含めてどの程度旅行しているのか質問した。まず，図表2によって記述

図表2 旅行回数の記述統計

(単位：回)

	女子	男子
中央値	3	2
最頻値	0	0
最大値	50	50
最小値	0	0

統計を概観しよう。女子学生の中央値は3回，最頻値は0回，最大値は50回，最小値は0回となった。また，男子学生では，中央値は2回，最頻値は0回，最大値，最小値は女子学生と同じとなり，男女で大きな違いはないようにみえる。

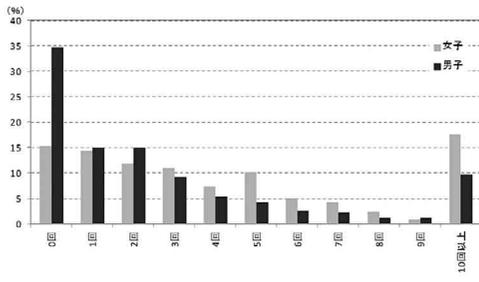
分布はどうであろうか。これをみたものが図表3である。このヒストグラムは，0回から9回，10回より多い回数については「10回以上」としてまとめて男女別に回数ごとの構成比を縦軸としたものである。なお，分母は女子が無回答者の2人を除いた722人，男子が無回答者の2人を除いた280人である。

女子学生の場合，最も構成比の高いのは「10回以上」の17.6%であり，次いで「0回」の15.2%，次が「1回」の14.4%となった。10回以上旅行に行く学生が2割弱いる一方で，全く行かない学生も1割強いるというように，グラフの両端にやや厚みのある分布となっている。

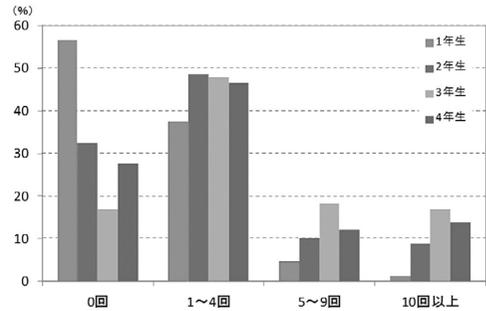
一方，男子学生の場合は，「0回」が34.6%となり，次いで「1回」と「2回」が共に15.0%となっている。「10回以上」は9.6%と1割弱の構成比に留まっている。

女子学生と比較すると，男子はそもそも旅行に行かないという学生の割合が圧倒的に多いことに加えて，「10回以上」という旅行好きの学生の割合も女子に比べて低い。男子学生は旅行にやや消極的な一方で，女子学生は旅行に積極的だと言えよう。

旅行回数は学年が上がるにつれて増加することが考えられる。すなわち，1年生から4年生まで共通して図表3でみたような分布になっているのではなく，例えば，1年生時は0回の構成比が高いが，2年生，3年生になるに連れてこの構成比が低下する



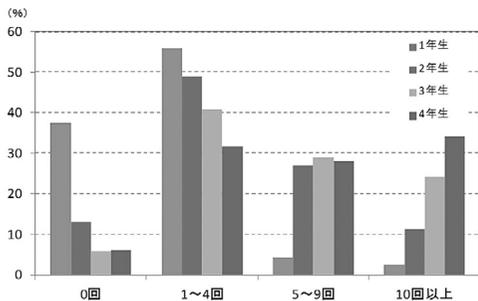
図表3 旅行回数の男女別構成比



図表5 男子学生の学年別旅行回数別構成比

一方で1回以上の構成比は上昇する、というように、学年によって分布の形が異なっていることが考えられる。

そこで、まず図表4によって女子学生の学年別の分布をみよう。図表4は、旅行回数を「0回」「1～4回」「5～9回」「10回以上」の階級に分けて、学年別に図表3と同様に分布をみたものである。これをみると、1年生では「0回」が37.4%、2年生では13.0%まで低下、3年生、4年生ではそれぞれ5.9%、6.0%まで低下している。「1～4回」でも1年生が55.8%であるが2年生では48.9%まで低下し、3年生ではさらに40.8%となり、4年生で31.7%まで低下している。一方、「10回以上」では1年生が2.5%、2年生が11.2%、3年生が24.3%、4年生では34.1%まで上昇している。このように女子学生では、「0回」及び「1～4回」では学年が上がるにつれて構成比が低下する一方で、「10回以上」では学年が上がるにつれて上昇していることがわかる。なお、「5～9回」では、1年生の4.9%から2年生では26.9%までジャンプアップするが、その後



図表4 女子学生の学年別旅行回数別構成比

3年生では29.0%、4年生で28.1%と変化に乏しく、学年に係わらない安定的な回数となっているようにみえる。

図表5によって男子学生についてみると、「0回」では、1年生で56.6%の水準から2年生では37.3%まで低下、3年生ではさらに16.9%まで低下している。一方で、「5～9回」では1年生が4.8%、2年生が10.3%、3年生が18.3%と上昇、「10回以上」でも1年生が1.2%、2年生が8.8%、3年生が16.9%と学年が上がるにつれて上昇している。男子学生についても学年が上がるにつれて旅行回数が増加するとみられる。

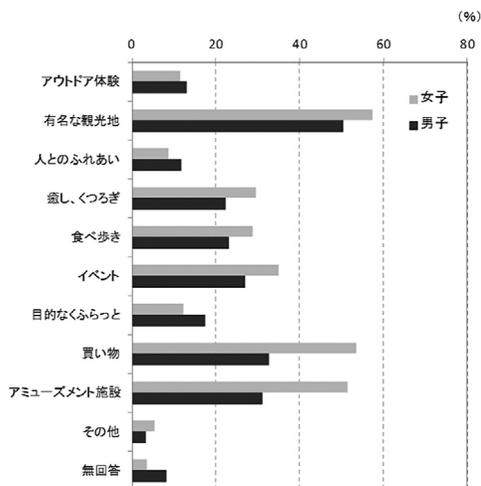
このように、男女とも学年が上がるにつれて旅行回数が増加していることがわかったが、女子学生の方が男子学生に比べてこの傾向は明確だと思われる。

2) 旅行の目的

次に旅行の目的を質問（複数回答可）し、回答数を分母とした構成比を男女別に示したものが図表6である。

女子学生をみると、最も高い構成比となっているのが「有名な観光地」で57.5%、次いで「買い物」53.5%、「アミューズメント施設（USJなど）」が51.4%と続いている。男子学生で最も構成比の高い目的は「有名な観光地」で50.4%、次いで「買い物」が32.6%、「アミューズメント施設（USJなど）」が31.2%となった。

男女とも旅行の目的として「有名な観光地」を約半数の回答者が挙げているが、女子学生では「買い



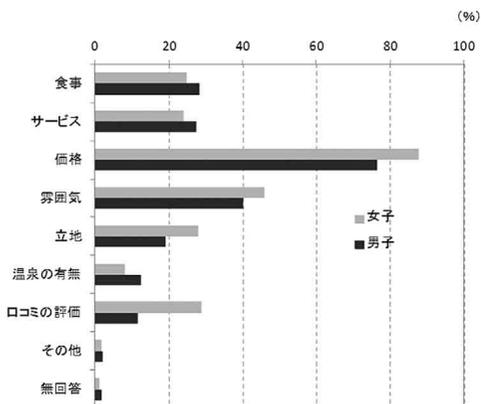
図表6 旅行の目的

物」や「アミューズメント施設 (USJ など)」もほぼ同等の割合であったのに対して、男子学生では両者の割合は女子に比べて低いということが特徴的だと言えよう。

3) 宿泊施設の選択

宿泊施設を選ぶ際に何を重視するのかということ質問した回答結果 (複数回答可) が図表7である。これは、男女ともに「価格」が圧倒的に高い構成比となっている。女子学生が87.8%,男子学生が76.6%で価格重視の姿勢がみられる。次いで高いのが「雰囲気」で、女子学生が46.0%,男子学生でも40.1%となった。

なお、女子学生の場合は、「口コミ」が28.7%、「立



図表7 宿泊施設の選択

地」が27.9%と、3割弱の学生が宿泊施設の選択の際に「口コミ」や「立地」を重視するのに対して、男子学生では11.7%, 19.1%と女子に比べて重視していないことが特徴的だと思われる。

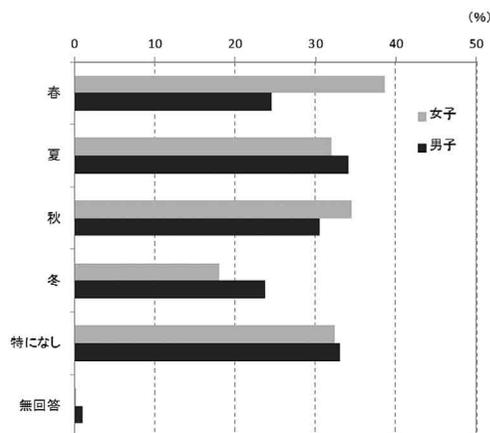
4) 旅行に行く時期

旅行に行くとしたらどの季節を選択するのかということ質問した結果 (複数回答可) が図表8である。

女子学生で最も高い構成比となった回答は「春」で38.7%, 次いで「秋」34.5%、「夏」が31.9%, 最も低い構成比となったのが「冬」で18.0%であった。

一方、男子学生で最も高いのが「夏」で34.0%, 次いで「秋」が30.5%、「春」が24.5%、「冬」が23.8%となった。

旅行と言えば秋が人気だと予想していたが、女子学生では4ポイント程度の差をつけて「春」の構成比が最も高く、男子学生でも「夏」が「秋」を上回ったことは意外であった。また、「春」については女子学生と男子学生の間で15ポイント程度の差があり、男女間で季節の選好の違いがあると思われる。なお、「特になし」が女子で32.3%, 男子で33.0%となっており、時期にこだわらない学生数も一定割合いることがわかる。

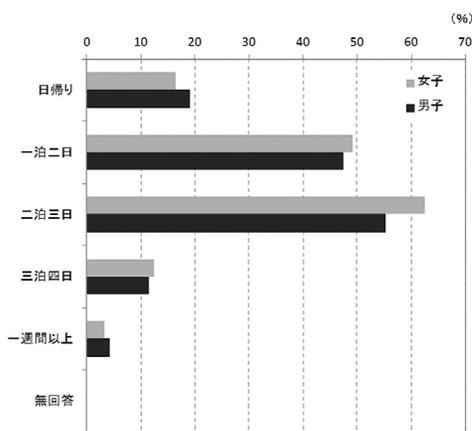


図表8 旅行に行く時期

5) 旅行の期間

どの程度の旅行期間が望ましいと思うのかということを質問した結果（複数回答可）が図表9である。

まず、女子学生で最も高い割合は「二泊三日」で62.5%、次いで「一泊二日」が49.2%であった。男子学生も同様に、最も高い割合は「二泊三日」で55.3%、次いで「一泊二日」が47.5%となった。「日帰り」及び「三泊四日」は男女ともに10%台の割合で「二泊三日」、「一泊二日」の割合との差は30ポイント弱となった。

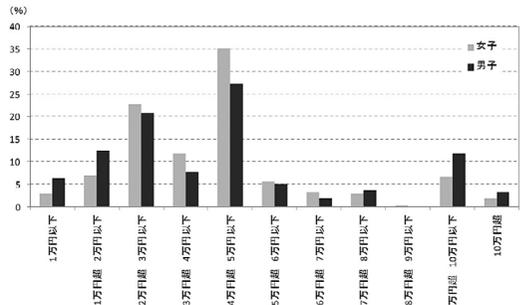


図表9 旅行の期間

6) 旅行で使ってもよい金額

旅行で使ってもよい金額を質問した結果が図表10である。まず、女子学生では、「4万円超 5万円以下」が最も構成比が高く35.2%で、ついで「2万円超 3万円以下」が22.7%と、この2つの金額帯に集中している。これは男子学生もほぼ同様である。男子学生で最も高い構成比となったのが「4万円超 5万円以下」で27.4%、次いで「2万円超 3万円以下」が20.8%となった。男女ともに一回の旅行で使ってもよい金額は、4万円超から5万円以下の金額帯を中心に右裾の長い分布になっているとみられる。

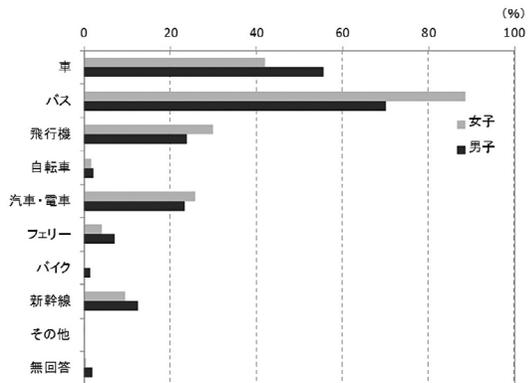
なお、男女を比較すると、男子学生の分布が女子学生に比べて山の高さが低く両裾のやや厚い分布になっているように思われる。すなわち、男子学生は女子学生に比べて2万円以下の学生の割合も高い一方で、9万円を超える金額を使ってもよいとする学生の割合も1割強いる（女子学生は8.5%）。



図表10 一回の旅行に使ってもよい金額

7) 旅行の際に利用する交通手段

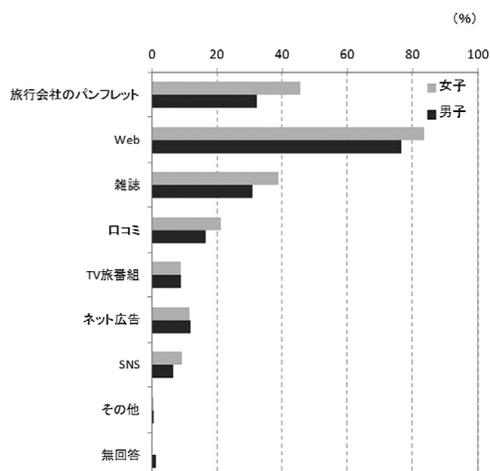
旅行に行く際に利用する交通手段を質問した結果（複数回答可）が図表11である。これによると、男女とも「バス」を利用する学生は多く、女子学生の88.5%、男子学生の70.2%が利用すると回答している。次いで「車」が女子で42.1%、男子でやや高めの55.7%となった。「バス」を利用する学生が圧倒的に多いことがわかる。



図表11 旅行の際に利用する交通手段

8) 旅行準備の際の情報収集手段

旅行準備の際の情報収集手段を質問した結果（複数回答可）が図表12である。この結果をみると、男女とも情報収集手段として「Web」を利用している学生が多く、女子学生で83.4%、男子学生では76.6%と、8割程度の学生が利用していることがわかった。ただ、Webだけというわけでもなく、「旅行会社のパンフレット」が女子学生で45.4%、男子学生で32.3%、「雑誌」の利用が女子学生で38.8%、男子学生で30.9%となった。パンフレットや雑誌と



図表12 旅行準備のための情報収集手段

いったインターネットの普及以前からある紙媒体が、依然として情報収集に利用されていることはやや意外であった。特に、女子学生での割合が男子に比べて10ポイント程度高く、女子でより多く利用されていることがわかった。

一方で、「ネット広告」や「SNS」の利用が広がっていると予想していたが、両者とも予想外に低く、「ネット広告」では女子学生が11.6%、男子学生が12.1%、「SNS」では女子学生が9.3%、男子学生が6.7%という結果であった。

4. おわりに

本学学生を対象とした観光に関する意識調査で明らかになったことをまとめると以下のようになろう。

①旅行に対しては、男子学生に比べて女子学生の方が積極的である。女子学生は1年生の時から旅行に行き、また、学年が上がるにつれて回数も増えている。

②旅行の目的としては、男女ともに「有名な観光地」が最も多いが、「買い物」や「アミューズメント施設」も多く、特に女子学生では有名な観光地と同等の割合である。

③宿泊施設を選択する際に重視するのは男女ともに圧倒的に「価格」であった。ただし、「雰囲気」や「立地」も一定割合選択されていたことを考えると、価格が安ければよいと直ちに解釈することには慎重が必要であろう。雰囲気や場所に見合った値ごろ感が大事という可能性もあるのではないかとと思われる。

④旅行に行きたい季節は意外にも秋ではなく、女子学生で「春」、男子学生で「夏」が最も支持を得た。

⑤一回の旅行に使ってもよい金額は、5万円程度ないしは3万円程度であった。

⑥利用する交通機関は圧倒的にバスが多い。

⑦情報収集手段としては、男女ともにWebが主流である。ただし、昔ながらのパンフレットや雑誌といった紙媒体も利用されており、この傾向は女子学生の方が強い。

今後本稿をベースにして最終報告書をまとめ、観光振興議員連盟に報告する予定である。本調査が本県の観光振興のための観光政策立案に少しでも役立つれば幸甚である。

最後に、この調査では本学の全ての学部の皆さまに協力して頂きました。アンケートの記入は、国家試験に向けた模擬試験終了時や講義開始時などを利用していただいたほか、学部主任の先生にアンケートの実施・回収をお願いした学部もあります。ここに改めて謝意を表します。

